

※このメールは東京都が開催いたしましたイベント等にご参加いただいた方、東京都港湾局職員とお名刺を交換して下さった方々及びメールマガジンの配信を希望された方々に BCC でご案内させていただいております。

※今後このようなご案内が必要でない方は、お手数をおかけいたしますがこのメールにて「不要」とご入力のうえ、ご返信ください。

東京都港湾局 物流通信 2023.05.30号(第45号)

東京港における荷役機械のFC化プロジェクトを 実施します

東京都港湾局では、本年3月に「東京港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」を策定し、これに基づく脱炭素化に向けた取組を推進しております。

このたび、東京都港湾局、日本郵船株式会社、株式会社ユニエツクスNCT、株式会社三井E&S及び岩谷産業株式会社は、大井コンテナふ頭において、タイヤ式門型クレーン（RTG）※1に燃料電池（FC）※2を実装し、水素を燃料とした荷役作業を実施するため、協定を締結いたしました。

本プロジェクトの成果を広く展開することで、荷役機械等の水素利用の普及促進を図り、東京港の脱炭素化を推進してまいります。

※1 タイヤ式門型クレーン（RTG: Rubber Tired Gantry crane）：両端にタイヤ付きの脚を設け、地上にレールを設置しなくても走行することができるクレーンのこと

※2 燃料電池（FC: Fuel Cell）：水素と酸素を化学反応させて、電気を発電する装置のこと

記

1 プロジェクトの名称

東京港における荷役機械のFC化プロジェクト

2 参画者

- (1) 東京都港湾局
- (2) 日本郵船株式会社
- (3) 株式会社ユニエツクスNCT
- (4) 株式会社三井E&S
- (5) 岩谷産業株式会社

3 実施場所

東京都品川区八潮二丁目5番2号

(大井ふ頭6/7号バース 日本郵船東京コンテナ・ターミナル内)

4 実施内容

- (1) 荷役機械のディーゼルエンジン発電機のFC発電装置への換装
- (2) 荷役機械に対する水素供給体制の構築
- (3) 荷役機械による荷役作業の実施(荷役機械に対する水素充填を含む)

5 今後の予定

令和5年(2023年) : 事前調査・実施計画、FC発電装置等の設計・製作等

令和6年~7年(2024年~2025年) : 荷役機械のFC発電装置への換装、
水素を燃料とした荷役作業の実施、検証等

※ 詳細は、次のURLからご覧ください。(報道発表)

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/05/30/04.html>

※東京港の振興施策のご紹介ページはこちら↓

<https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/business/shinkousisaku.html>

※メールマガジン「物流通信」のバックナンバーはこちら↓

https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/business/post_8.html

メールによるお問い合わせは

東京都港湾局港湾経営部振興課 S0000517@section.metro.tokyo.jp
